

2012.09.18

第42回全日本実業柔道個人選手権大会戦評
(主に当連盟加盟チーム選手を中心)

男子90kg級

男子90kg級は、新人池田、全試合を異なる技の一本勝で優勝を飾る。

日本中央競馬会の新人池田賢生参段は、準決勝戦までの4試合を、刈り技、担ぎ技、抑込技、絞技の全て異なる技による一本勝で勝ち進む。川瀬孝司式段(ぎふ柔道クラブ24)との準決勝戦では、共に技ありの後の3分59秒、大内刈一本で決勝戦進出を決める。

片や、了徳寺学園の穴井亮平四段も順調に勝ち上がり、昨年第3位入賞のベテラン法兼真五段(ALSOK)との準決勝戦を延長戦による旗判定で降し、初の決勝戦進出を果たす。

準決勝戦第1試合

2川瀬 孝司	大内刈	○3池田 賢生
(ぎふ柔道クラブ24)		(日本中央競馬会)

準決勝戦第2試合

4穴井 亮平④	(優勢勝)	5法兼 真
(了徳寺学園)	(ゴールデンスコア)	(ALSOK)

決勝戦

3池田 賢生○	小内刈	4穴井 亮平
(日本中央競馬会)		(了徳寺学園)

共に右組み。開始暫くは引手を絞り合う展開が続くが、1分5秒に、池田が組み際、右奥襟から穴井の首を抜きつつ、右小内刈を仕掛け、そのまま左前に大きく巻込むと、横倒しになった穴井は池田の圧力に負けてくるりと回り畳を背負う。